

## 福岡県の主な農産物の生産状況

令和2年12月1日現在  
(専技情報より抜粋)

### ◇大豆◇

11月20日現在の収穫進捗状況は41%（前年同期68%）です。11月は降雨が少なく、収穫作業は順調に進み、7月中下旬播の収穫は終了しました。本年は8月上旬播が多く、収穫は12月上旬までかかる見込みです。播種の遅れや8月の乾燥により生育量が少なく、最下着莢位置が低く、台風の影響で倒伏もあり、刈取りロスが多かったため、収量は前年並（107kg/10a）に少ない見込みです。

大豆株及びほ場が乾いたら速やかに収穫しましょう。汚損粒の発生や収穫ロス軽減のため、コンバインの刈取り高さや速度を調節して収穫しましょう。倒伏しているほ場は、リフターキットを装着し、刈取りロス軽減に努めましょう。

### ◇麦類◇

11月12日現在の播種進捗状況は1.0%（前年同期2.3%）です。11月は降雨が少なく、播種作業は順調に進んでいます。播種の最盛期は11月下旬で、大豆の収穫がやや遅れているため、大豆後の作型では12月中旬頃までかかる見込みです。

適度な土壌水分となったら速やかに播種しましょう。12月中旬以降に播種する場合には、播種量を増やしましょう。雑草の発生が早いいため対策を徹底しましょう。

### ◇冬春ナス◇

11月上旬まで日照時間が多く、好天に恵まれたため、生育は概ね良好で出荷量は前年より多いです。出荷の山ができたことによる樹勢低下が見られたものの夜温の冷え込みもあり、樹勢は回復しています。現在、着花（果）数は安定していますが、主枝の収穫が残り2～3果で、側枝の収穫に切り替わる時期に入るため、今後、出荷が減少する見込みです。コナジラミ類、アザミウマ類の発生は少ないです。病害の発生は少ないですが、一時期の高夜温により灰色かび病の発生が散見され、一部で黒枯れ病やうどんこ病が発生しています。

厳寒期は日射量が少ないため、日中に内張りカーテンを巻き上げ、側枝が混み合わないようには芽の整理を行うとともに、こまめに摘葉し、新芽や果実への採光性を高めましょう。日中の炭酸ガス濃度は400ppmを維持し、日中加温（10:00～16:00、20℃）を組合せて厳寒期の生育促進を図りましょう。施設内が多湿条件にならないように管理するとともに、病害対策を徹底しましょう。

### ◇ナシ◇

本年産の出荷は概ね終了です。「幸水」では、春季の低温による初期肥大不良、「豊水」「新高」等中晩生種では、暖冬や春季の天候不順による、開花異常、結実不良がみられ、全体的に出荷量は前年、平年より少なくなりました。今後、天候不順による樹勢低下や「幸水」の腋花芽着生不足等が懸念されます。

せん定は充実した花芽確保に努めるとともに、発芽障害対策として、短果枝の利用割合を高めましょう。黒星病対策として、落葉処理など越冬量の減少に努めましょう。施設栽培の被覆開始時期は、低温遭遇時間の推移等に留意して決定しましょう。

### ◇イチジク◇

本年度の出荷はほぼ終了です。10月以降の出荷は、比較的順調に推移しました。今年度のイチジクでは、7月の長雨・日照不足、8月の高温乾燥、9月の台風等の影響で根傷み、果実肥大不良、傷果等出荷ロスの発生がみられ、11月中旬時点の出荷量は、前年、平年より少なかったです。

収穫終了後は残果の除去や落葉処理を速やかに行いましょう。樹勢低下園では、客土や堆肥等の投入を行い、樹勢の維持・回復を図りましょう。

◇施設ギク◇

9月彼岸の高騰相場の反動から10月の相場は低かったため、6～10月の単価は平年並となりました。「精の一世」等の夏秋ギクは、11月下旬まで出荷予定です。「神馬」等の秋ギクの出荷は、11月中旬から徐々に増加しています。年末出荷の作型の生育は、概ね順調。白さび病の発生は少ないです。

施設栽培では、多湿や低温条件が続くと白さび病が発生しやすくなるので、昼間の換気や夜間温度（12～13℃）の維持を図りましょう。重油消費量の削減を図るため、ハウスの気密性を高める等、保温性向上に努めましょう。

◇畜産◇

和牛去勢の枝肉単価は、平成31年1月以来となる2,500円/kgを上回りました。「GoTo」キャンペーン等の影響により、外食消費が戻りました。省令価格（交雑種相当）も、前年比99%、過去5年平均比99%と戻っています。

県内で初となる鳥インフルエンザが発生しており、野鳥の侵入等の農場衛生管理を徹底しましょう。酪農、肉用牛のサシバエ等の害虫対策も実施しましょう。